

リーディングDXスクール事業【実践事例】

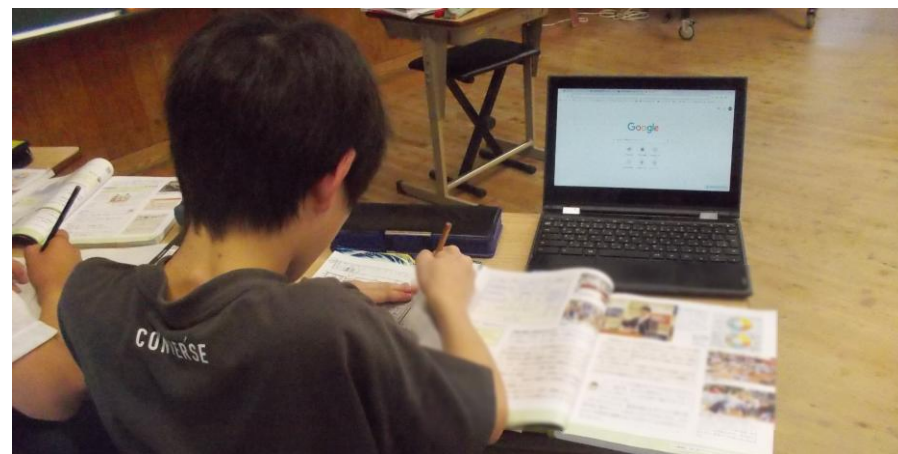
武雄市立若木小学校（佐賀県）【指定校】

【取組内容】 児童が自立して学習を進めるための情報活用能力の育成

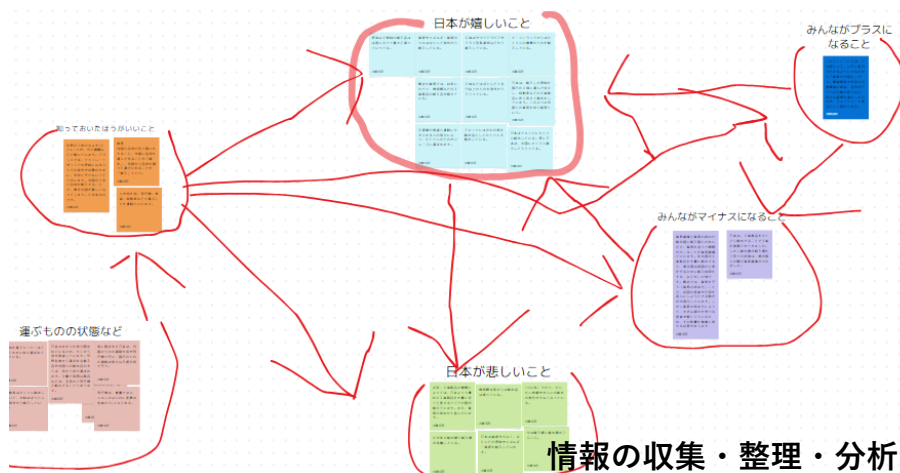
社会科や総合的な学習の時間において、教科書や各種パンフレット、インターネットなどの情報を得る手段を複数提示し、児童に手段を選択させる機会を多く設定した。高学年では、教科書とインターネットの情報を比較する場面を設定し、適切な情報収集の在り方、正確さを吟味することの重要性を理解することにつながった。



パンフレットの資料（3年生社会科）



複数の手段による情報収集（6年生社会科）



左図のように、集めた情報を付箋に記し、観点ごとに整理したり、関連する情報を繋げていたりしている。記入したものを自由に動かしたり、付箋の色を変えたりすることで、情報の整理には効果的である。また、ある情報（付箋）に対して、関連する情報を更に探し、考察する場面も以前より増えた。これらのファイルは学級内でクラウドを通じて共有されているため、他の児童が調べたことを、いつでも参考にできる。同じ課題であれば、集めた情報の妥当性の検討を行ったり、異なる課題であれば、広く情報に触れたりする機会になる。課題としては、児童の収集した情報の管理をより簡易化することや、時系列で個別の変遷が分かるようにすることで、学習履歴を児童も指導者もしやすい環境をつくることである。